

2023年2月9日

各位

会社名 株式会社西武ホールディングス
代表者 取締役社長 後藤高志
(コード番号：9024 東証プライム市場)
問合せ先 広報部長 多々良嘉浩
(TEL. 03-6709-3112)

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2023年2月9日開催の取締役会において、2022年9月29日に公表した2023年3月期の通期連結業績予想を修正することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2023年3月期通期連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	償却前営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
前回公表数値 (A) (2022年9月29日発表)	416,000	13,000	70,000	11,000	75,000
今回修正予想 (B)	424,000	17,000	74,000	14,000	79,000
増減額 (B-A)	8,000	4,000	4,000	3,000	4,000
増減率 (%)	1.9%	30.8%	5.7%	27.3%	5.3%
(参考) 前期実績 (2022年3月期)	396,856	△13,216	42,415	△17,440	10,623

2. 修正の理由

今回公表する通期連結業績予想は、足元の業績の動向などを踏まえ修正するものです。

営業収益につきましては、2022年12月1日、2023年2月1日に公表した「(開示事項の経過) 子会社における固定資産の譲渡に関するお知らせ」のとおり、ホテル・レジャー事業資産の譲渡による影響があるものの、全国旅行支援やインバウンドの想定を上回る回復に加え、為替レートが想定より円安に推移したことなどにより、2022年9月29日公表数値を上回る見通しであります。

足元での電気動力費などの高騰があるものの、各種経費のコントロールや前述の譲渡の影響もあり、通期の固定費は2020年3月期比で25,000百万円程度を削減する見通し(同公表数値における削減見込：24,000百万円)であり、営業収益が同公表数値を上回る見通しであることから、営業利益、償却前営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は同公表数値を上回る見通しであります。

3. 各セグメントにおける営業収益及び営業利益、償却前営業利益の見通し

(単位：百万円)

セグメントの名称	営業収益			営業利益			償却前営業利益		
	当連結会計年度 (今回予想)	9/29時点 公表数値比	前期比	当連結会計年度 (今回予想)	9/29時点 公表数値比	前期比	当連結会計年度 (今回予想)	9/29時点 公表数値比	前期比
都市交通・沿線事業	143,700	△1,000	+12,368	1,500	+100	+7,248	23,800	+100	+7,045
ホテル・レジャー事業	188,200	+900	+55,019	2,400	+100	+30,450	19,500	△600	+30,628
不動産事業	74,200	+1,100	△2,439	11,700	+1,700	△8,879	23,400	+1,700	△9,142
建設事業	-	-	△62,290	-	-	△3,177	-	-	△3,386
その他	38,500	+500	+5,738	△100	+1,000	+3,156	3,900	+1,000	+3,062
合計	444,600	+1,500	+8,396	15,500	+2,900	+28,798	70,600	+2,200	+28,207
調整額	△20,600	+6,500	+18,747	1,500	+1,100	+1,417	3,400	+1,800	+3,377
連結数値	424,000	+8,000	+27,143	17,000	+4,000	+30,216	74,000	+4,000	+31,584

(注) 1 調整額については、主に連結会社間取引消去などです。

2 償却前営業利益は、営業利益に減価償却費およびのれん償却額を加えて算定しております。

都市交通・沿線事業につきましては、第3四半期連結会計期間における鉄道運輸収入の回復があるものの、西武園ゆうえんちにおける来場者数が想定より低調に推移していることや、バス業における回復ペースの鈍化などにより、営業収益は同公表数値を下回る見通しであります。各種経費のコントロールなどにより、営業利益、償却前営業利益は概ね同公表数値通りとなる見通しです。

ホテル・レジャー事業につきましては、前述のホテル・レジャー事業資産の譲渡による影響があるものの、全国旅行支援やインバウンドの回復などにより、営業収益は同公表数値の想定を上回る見通しであります。営業収益が想定を上回る見通しであることから、営業利益は同公表数値を上回る見通しであります。

不動産事業につきましては、分譲地販売や商業施設の回復などにより、営業収益は同公表数値を上回る見通しであります。営業利益、償却前営業利益は各種経費のコントロールなどにより更に拡大する見通しであります。

その他では、第3四半期連結会計期間において、伊豆箱根事業、近江事業において需要が想定以上に回復したことやスポーツ事業におけるコンサート開催にかかる施設利用収入が想定を上回ったことなどにより、営業収益は同公表数値を上回る見通し、各種経費のコストコントロールなどにより、営業損失は同公表数値から縮小、償却前営業利益は同公表数値を上回る見通しであります。

(注) 本資料に記載されている当社グループの業績予想、目標、計画、予想その他の将来情報については、本資料の発表日時点において入手可能な情報に基づき作成した当該時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社グループの業績、財政状態その他の結果は、国内外の政治、経済、金融情勢の変動や、当社グループの中期経営計画において意図する施策の状況その他の本資料の作成時点で不確実な要素等により、本資料の内容又は本資料から推測される内容と大きく異なる場合があります。

以上